

# 旅順博物館藏吐魯番漢文文獻から 発見された禪籍について(2)

## 程 正

小論(1)の目次(『駒澤大學禪研究所年報』第 34 號に掲載済)

一、旅順博物館藏吐魯番漢文文獻について

二、旅順博物館藏吐魯番漢文文獻から発見された禪籍

(一)燈史類

1、『菩提達摩南宗定是非論』(LM20-1523-19-178 の 1 號)

2、『楞伽師資記』(LM20-1454-05-18、LM20-1522-17-16、LM20-1503-C0190  
の 3 號)

(二)語録類

4、『大乘起世論』(LM20-1471-28-03 の 1 號)

5、『二入四行論』(LM20-1521-23-07 の 1 號)

6、『大乘五方便北宗』(LM20-1520-20-05V の 1 號、龍大藏大谷文書  
Ot.5449 の 1 號)

7、『南陽和尚問答雜徵義』(旅博本 14 號+龍大藏大谷文書 17 號= 31 號)

小論(1)に續く

(三)注抄・偽經論類

8、『觀世音經讚』<sup>1</sup>(以下、『經讚』)(旅博本 39 號+龍大藏大谷文書 1 號= 40 號)

『經讚』は金剛藏菩薩と名乗る北宗の禪者による『觀世音經』の注釋書である。従来では、傳世資料に存しないどころか、敦煌遺書においても僅かに首缺の BD3351 の 1 種のみが確認されているに過ぎなかった。

<sup>1</sup> 『分類目録』では、『經讚』のテキストとして、BD3351(雨 51、北 6280)の 1 種を紹介している。

(62) 旅順博物館蔵吐魯番漢文文獻から発見された禪籍について (2) (程)

「旅博中國科研」では、当初、旅博本より 39 號、龍大藏大谷文書より 1 號がそれぞれ検出され、しかもいずれの残片も、なんと本来同一寫本に屬するものであることが、科研の構成員の一人に当たる嚴世偉氏の「新見旅順博物館蔵《觀世音經讚》復原研究」(『論文集 2019』、304~340 頁)と題する論文によって報告された。嚴氏は「一 釋録、綴合與復原」という一節を設け、まず『經讚』の内容に従って 40 號に及ぶ残片に残存する文字を 1 號ずつ活字に起こした上、吐魯番本『經讚』のテキスト復元をも試みられた。その後、『旅博圖録』巻 30 (239 頁)によって、LM20-1521-19-13 も『經讚』の残片であることを明らかにされている。その結果、旅博本には計 40 號にも及ぶ『經讚』の残片が存在していることが確認された。

まず、『旅博圖録』に基づいて旅博本 40 號、IDP に基づいて龍大藏大谷文書 1 號の基本情報を一覧表にしておこう。

	旅博本・大谷本番號	寸法 (縦×横)	旅博圖録
①	LM20-1468-05-11	5.4 × 6.5	11-023
②	LM20-1469-05-07	6.8 × 15.8	11-138
③	LM20-1469-09-02	9.4 × 10.4	11-153
④	LM20-1469-09-04	9.8 × 8.2	11-154
⑤	LM20-1469-09-08	6.8 × 6.2	11-155
⑥	LM20-1469-11-01	18.5 × 14.3	11-160
⑦	LM20-1469-11-03	5.5 × 7.1	11-161
⑧	LM20-1469-11-04	8.4 × 7.2	11-161
⑨	LM20-1469-12-02	4.4 × 5.8	11-163
⑩	LM20-1469-12-06	5.2 × 4.9	11-164
⑪	LM20-1502-032	8.3 × 11.8	22-103
⑫	LM20-1503-C0193	14.8 × 10.2	22-191
⑬	LM20-1503-C0221	12.1 × 8.9	22-212
⑭	LM20-1504-C0354	6.3 × 2.3	23-013
⑮	LM20-1506-C0862a	5 × 5.8	24-148
⑯	LM20-1506-C0871c	4.6 × 10.8	24-154
⑰	LM20-1507-C1072c	3.2 × 1.2	25-057
⑱	LM20-1507-C1090a	3.5 × 6.7	25-076
⑲	LM20-1508-C1279	4.2 × 3.1	25-215
⑳	LM20-1509-C1506c	2.6 × 3.6	26-015
㉑	LM20-1509-C1537e	4.8 × 3.8	26-037

②②	LM20-1518-38-15	8.9 × 5.2	29-144
②③	LM20-1519-01-02	3.3 × 3	29-147
②④	LM20-1519-01-04	6.7 × 5.4	29-147
②⑤	LM20-1519-01-14	6.7 × 4.8	29-149
②⑥	LM20-1520-26-18	4 × 3.8	30-097
②⑦	LM20-1520-30-10	5 × 5.8	30-114
②⑧	LM20-1520-33-02	2.6 × 5	30-125
②⑨	LM20-1520-34-03	4.6 × 3.1	30-129
③⑩	LM20-1520-35-05	8.3 × 4.8	30-134
③⑪	LM20-1520-37-08	3.6 × 4.4	30-144
③⑫	LM20-1521-11-16	5.8 × 3.8	30-203
③⑬	LM20-1521-12-03	2.6 × 7.3	30-203
③⑭	LM20-1521-19-12	4.4 × 2.3	30-239
③⑮	LM20-1521-19-13	2.3 × 1.5	30-239
③⑯	LM20-1521-23-05	2.8 × 3.5	30-256
③⑰	LM20-1521-23-14	4.2 × 3.5	30-258
③⑱	LM20-1522-11-01	4 × 3.6	31-053
③⑲	LM20-1522-18-06	4.7 × 4	31-088
④①	LM20-1523-03-32	6.6 × 5	31-132
④②	Ot. 9121	11 × 13	/

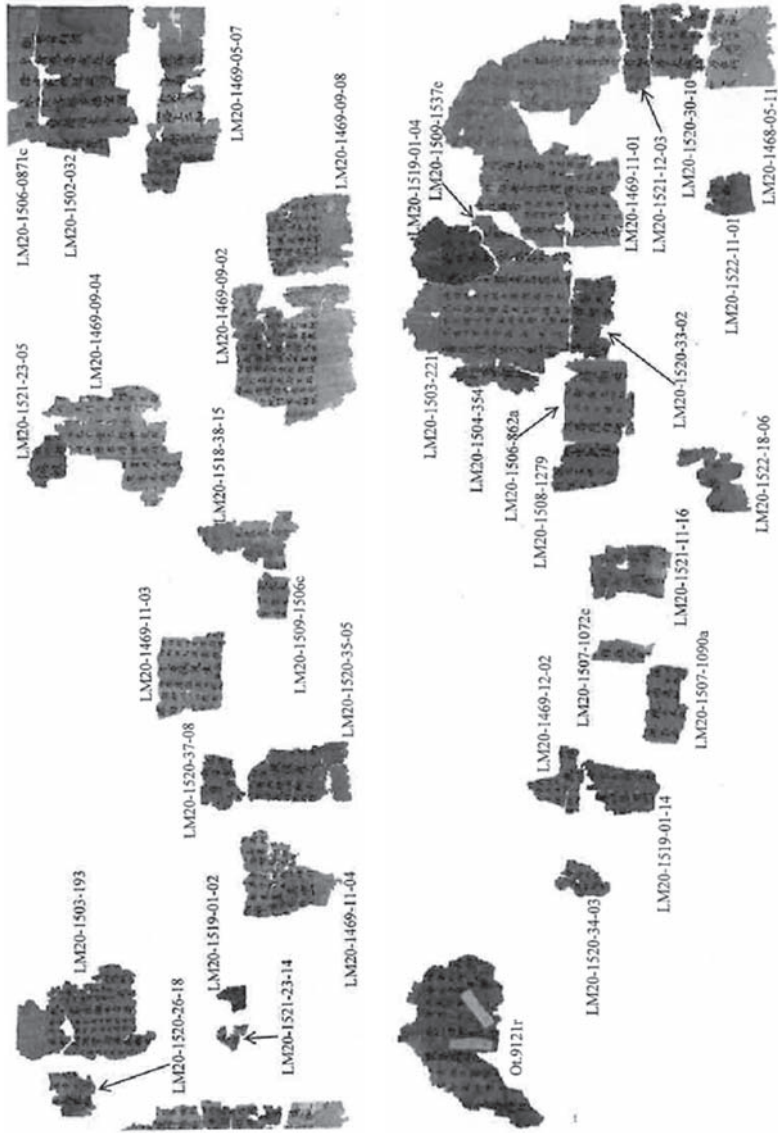
次に、上記の一覧表に記される通し番號を用いて、嚴氏による各殘片に基づく内容復元の順序を示しておこう。ただし、嚴氏が紹介した旅博本39號のうち、⑩、⑭、⑳の3號は、同一寫本に屬する殘片であるものの、殘存の文字情報だけでは寫本に位置する場所が特定できていないという。新出の㉓も同じ状況にあると考えられるため、こちらの4號を内容復元の對象から除外した。嚴氏によれば、吐魯番本『經讚』のテキストは下記の順番でその内容の一部を復元できるという。繁雜を避けるため、その順番を上記の一覧表にある通し番號で表せば下記の通りとなろう。

⑩→⑪→②→⑤→③→④→⑯→②②→②①→⑦→⑳→③①→⑧→⑫→②③→③⑰→②⑥→  
 ⑥→③⑱→③⑬→②⑦→①→②④→②①→⑬→②⑧→⑭→⑮→⑲→③⑲→③②→⑰→⑱→⑨→②⑤  
 →②⑨→④②

(64) 旅順博物館蔵吐魯番漢文文獻から發見された禪籍について (2) (程)

吐魯番本『經讚』は、首題が「觀世音經讚」で、序文も4行ほど残存しており、そして恐らく序文の末尾とみられるところに「金剛藏菩薩」の署名がみられ、本文が挾注(割り注)で書寫されている罫入りの卷子本の残卷である。嚴氏によれば、吐魯番本は『經讚』の卷首部分の内容が残存しているため、その多くがちょうど敦煌本 BD3351 の首缺部分を補えるが、41 號の残片のうち、敦煌本と重なったのが、僅か4 號(⑨⑫⑲⑳)のみであるという。そして兩者の内容を比較した嚴氏は、内容的には酷似しているが、敦煌本に比して吐魯番本の注釋がより洗練されているようで、吐魯番本が『經讚』の略出本である可能性を示唆された。

復元された旅博本『經讚』は、缺損の激しい残卷とはいえ、その文獻研究に大きな意味をもつ。なぜならば、敦煌本は首缺であるため、その首題や序文の有無などについては、明らかにしえなかったが、旅博本によって、『觀世音經讚』という首題の存在が確定となり、そしてその卷首に序文も存在していることが初めて確認されたのである。



吐魯番本『經讀』復元圖  
嚴世偉「新見旅順博物館藏《觀世音經讀》復原研究」(『論文集 2019』, 339 ~ 340 頁) より轉載

9、『佛為心王菩薩說頭陀經』<sup>2</sup>(以下、『心王經』)(4號)

旅博コレクションに存する『心王經』の残片については、まず榮 2019a によって① LM20-1454-07-06、② LM20-1457-25-08、③ LM20-1521-18-04 の3種が紹介され、そして『旅博圖録』巻31により、④ LM20-1522-03-05 の存在も知られるに至った。『旅博圖録』の「解題」によれば、①～④の4種はいずれも唐時期の寫本であるという。

ここでは、まず『旅博圖録』の掲載寫眞に基づいてそれぞれ4種の概況を説明しておこう。①は地脚の残る罫入りの紙片に5行の内容が残存している斷片で、②は天頭と地脚を失った罫入りの紙片に9行の文字が残っている殘片で、③はなんと無缺の文字が僅かに2字しかない罫入りの極小破片である。①～③の3種は殘存内容がいずれも『心王經』の本文のみであるのに対して、④は經文そのものが残っておらず、殘存の5行がすべて挾注(割り注)の内容に当たる。次に、これらの4種のテキストを方廣鋳校訂本(以下、方本)<sup>3</sup>と對照して表記しておこう。

① LM20-1454-07-06	方本 (282 頁 1 ～ 8 行目)
前缺	前略
1 □ … □ 若鑽煩 /	若鑽煩惱佛性顯現要須在定心在定故
2 □ … □ 定力慧力乃 /	定力慧力乃能鑽插譬如穀子糠皮盡淨
3 □ … □ 雖蒙時節雨 /	雖蒙時節雨水調適芽不能生凡夫亦爾
4 □ … □ 若遇善友諸佛 /	若遇善友諸佛菩薩示其方便以大乘法杖鞭
5 □ … □ 分別心心虫既死 /	分別心心虫既死
後缺	後略
② LM20-1457-25-08	方本 (284 頁 6 行 ～ 285 頁 9 行目)
前缺	前略
1 □ … □ 薩常度 □ … □ /	薩常度衆生有因緣故方便巧說衆生度佛
2 □ … □ 我常宣說 □ … □ /	我常宣說諸法平等無有二相佛度衆生衆

<sup>2</sup> 『分類目録』では、『心王經』のテキストとして、注釋を含まない〔素本〕に① Sch353(ソグド語)、②津藝 171(77・5・4510)、③ Д x16997 の3種を、〔注釋本〕に④ S2474V、⑤ P2052、⑥ BD9746V(在 67)、⑦ BD9779V(坐 100)、⑧ BD15369(新 1569)、⑨ 日本三井文庫本の6種をそれぞれ紹介している。その後、拙稿「俄藏敦煌文獻中に發見された禪籍について(3)-2」(『駒澤大學佛教學部研究紀要』79、2021。以下、拙稿俄藏(3)-2。)で Д x16139 の1種を新たに紹介している。

<sup>3</sup> 方廣鋳「佛為心王菩薩說頭陀經(附註疏)」(方廣鋳主編『藏外佛教文獻』1、宗教文化出版社、1995)。

3 □ … □ 生度佛 □ … □ /	生度佛始名平等佛告心王菩薩言善哉善哉
4 □ … □ 汝入究竟 □ … □ /	汝入究竟陀羅尼慧無礙大辯於諸菩薩大
5 □ … □ 衆之中 □ … □ /	衆之中作師子吼顯平等法我於餘經竟
6 □ … □ 未說之今於 □ … □ /	未說之今於頭陀大乘方等心王菩薩大衆
7 □ … □ 純熟智慧 □ … □ /	純熟智慧明淨大慈大悲利根大士堪闢大
8 □ … □ 法菩薩方 □ … □ /	法菩薩方便所以說之法相深邃難信難
9 □ … □ 解二乘凡天 □ … □ /	解二乘凡夫
後缺	後略

③ LM20-1521-18-04	方本 (282 頁 9 行目)
前缺	前略
1 □ … □ 磨瑩心性 □ … □ /	心蟲既死【内外清淨毒害不生加功】 <sup>4</sup> 磨瑩心性
後缺	後略

④ LM20-1522-03-05	方本 (296 頁 4 ~ 11 行目)
前缺	前略 (經文本本文も省略)
1 □ … □ 門 □ … □ /	門雖多空寂第一 … (中略) …
2 □ … □ 聞心菩薩 □ … □ /	聞心菩薩心凡夫心浮造惡業沒在三有不能得 起聲聞之人但見於空不見不空中道不見 佛性沉心住空不能得起菩薩心不沉不浮不沉 故不同小乘不浮故不同凡夫離此二行是菩薩
3 □ … □ 能得 □ … □ /	
4 □ … □ 菩薩 □ … □ /	
後缺	後略

上表でわかるように、①②③の3種は、いずれも1行凡そ17字前後で『心王經』本文のみが書寫されている残片で、①と③の間に、内容的には10字前後の缺損がある。また、①②③の3種は、それぞれに残存する文字の筆跡からすれば、同一の寫本に屬するものである可能性がかなり高いと思われる。もし筆者の推定が大過なければ、①→③→②というのが本来の位置関係であろう。ただし、それぞれの間に、なお缺損した内容があり、このままでの結合による復元は不可能である。

## 10、『佛說法王經』<sup>5</sup>(以下、『法王經』)(11 號)

『法王經』の漢文テキストについては、これまで24種の存在がすでに確認さ

<sup>4</sup> ①との内容的繋がりを示すため、両者の間にある缺損文字を便宜的に【 】で補った。

<sup>5</sup> 『分類目録』では、『法王經』の敦煌漢文寫本テキストとして① S2692、② S7269、③ BD630 (日30、北8278)、④ BD6326(鹹26、北8279)、⑤ BD6536(淡36、北8662)、⑥ BD10938(臨1067)、⑦ BD14700(新900)、⑧ BD15098(新1298)、⑨ Ⅱ x3968A 或Ⅱ x3989、⑩ Ⅱ x5080、

(68) 旅順博物館蔵吐魯番漢文文獻から発見された禪籍について (2) (程)

れている。このうち、ドイツ蔵吐魯番文書 Ch3914 の 1 種も含まれている。今回は『旅博圖録』によって旅博コレクションに『法王經』の漢文寫本殘片 11 號<sup>6</sup> の存在が知られるにいたった。これらの 11 號の概要を表記すれば、以下の通りとなる。なお、以下の各表共通であるが、新たに設けた「推定年代」、「CBATA」の 2 項目は、注記のあるものを除き、基本的に『旅博圖録』の「解題」によるものとする。

	旅博本番號	寸法(縦×横)	推定年代	CBATA(T85)	旅博圖録
①	LM20-1452-24-07	9.7 × 7.3	唐	1386b4~8	02-124
②	LM20-1457-08-07	12.1 × 8.1	唐	1390a1~5	04-302
③	LM20-1458-17-13	5.3 × 4.9	唐	1388c2~3	05-118
④	LM20-1461-37-12	5.3 × 7.1	唐	1385c14~18	07-230
⑤	LM20-1491-25-02	6.5 × 12	唐	1388b11~14	19-051
⑥	LM20-1500-10-05a	20.3 × 10.3	唐	1389b17~23	21-179
⑦	LM20-1500-33-04	7 × 6.1	高昌國	1389b22~25	21-223
⑧	LM20-1505-C0516b	5.2 × 6	唐	1385b2~5	23-099
⑨	LM20-1508-C1362d	5.9 × 6	唐	1389b26~c2	25-272
⑩	LM20-1517-0071	3 × 3.4	唐	1389b16~17	28-102
⑪	LM20-1520-20-09	4.2 × 1.9	唐	1386c16~19	30-072

### 11、『禪門經』(LM20-1450-09-06 の 1 號)

『禪門經』のテキストについては、これまで 9 種<sup>7</sup> の存在が確認されているが、すべて敦煌寫本であった。『選影』がいち早く旅博コレクションに属する

① LM20-1450-09-06 の 1 種を『禪門經』の殘卷<sup>8</sup> と特定し、その後、榮 2019a

① ㊦ x5387、② ㊦ x5513、③ ㊦ x6080、④ ㊦ x6140、⑤ ㊦ x6546、⑥ ㊦ x9438、計 16 種を紹介している。その後、拙稿英藏(2)で S8438、S9791、S9896、S11321、S12368 の 5 種を、拙稿吐魯番(2)で吐魯番漢語寫本 Ch3194 の 1 種を、拙稿俄藏(3)-2 で ㊦ x1109、㊦ x7105 の 2 種をそれぞれ新たに紹介している。

<sup>6</sup> 正確に言えば、『旅博圖録』では 12 號の存在が紹介されている。但し、そのうちの LM20-1520-20-09V については、卷 30「解題」ではその内容を、T85-1386c20-23 とする一方、臺帳から剥がせないため、裏面の寫眞撮影は不能としていた。筆者が寫眞による殘片の確認ができなかったことから、今回はこれを対象から除外した。

<sup>7</sup> 『分類目録』では、『禪門經』のテキストとして① S5532、② P4646、③ BD3495(露 95、北 8224)、④ BD7333(鳥 33、北 8225)、⑤ BD9649(湯 70)、⑥ BD12226(臨 2355)、⑦ 浙教 188(浙博 163、中散 1147)の 7 種を紹介している。その後、拙稿俄藏(3)-2 で ㊦ x2493(M2596)、㊦ x2555 の 2 種を新たに紹介している。

<sup>8</sup> 『選影』、178 頁。



もこれに觸れ、『旅博圖録』巻1に至っては、その書寫年代を「西州回鶻時期」と推定されている。この①こそ、最初に紹介された吐魯番本『禪門經』の寫本で、現時点では、『禪門經』のテキストとして敦煌遺書以外、唯一無二のものである。しかも、その「西州回鶻時期」という書寫年代の推定に大きな誤差がないとすれば、①は、單にその傳播地域を示すのみならず、敦煌遺書が藏經洞に封印された以降も、『禪門經』がなお流傳したことを意味するもので、そして流布年代の下限を示唆する貴重な物的證據となりうるであろう。

①は、天頭を失い、地脚のみを有する縦13cm×横26.2cm<sup>9</sup>の紙片に7行の内容を残す殘卷である。その寫眞を見る限り、7行以降、その卷末におよそ全體の五分の二を占める餘白があるが、擱筆を意味するものか。下表では、①を柳田聖山校訂本の該當部分<sup>10</sup>と對照してみるとわかるように、元來1行おおよそ17~18字前後で書寫された寫本である。

① LM20-1450-09-06	柳田聖山校訂本
前缺	前略
1 □ … □ 坐中見佛形像三十二相 /	菩薩白佛言世尊坐禪中見佛形像三十二相
2 □ … □ 在爲眞實耶爲虛 /	種種光明飛騰虛空變現自在爲眞實耶爲虛
3 □ … □ 空无有物若見於佛 /	妄耶佛言善男子坐禪息見空无有物若見於佛
4 □ … □ <u>倒</u> 繫著魔網何以故 /	種種光明三十二相皆是顛倒繫著魔網何以故
5 □ … □ 子於空寂滅見如是事 /	眞如實性無有分別善男子於空寂滅見如是事
6 □ … □ <u>薩</u> 白佛言世尊曾聞 /	即爲虛妄棄諸蓋菩薩白佛言世尊曾聞
7 □ … □ <u>遠</u> 耶善男子若 /	如來而坐道場在何處爲近爲遠耶善男子若
擱筆か	後略

## 12、『佛說法句經』<sup>11</sup>(以下、『法句經』)(32號)

旅博コレクションには、禪系の偽經として名高い『法句經』の殘片おおよそ

<sup>9</sup> 『選影』、233頁。

<sup>10</sup> 柳田聖山『禪門經について』(『塚本博士頌壽紀念佛敎史學論集』1961→同氏『禪佛敎の研究』(柳田聖山集)1、法藏館、1999、309~310頁)。

<sup>11</sup> 『分類目録』では、『法句經』のテキストとして① S33、② S837、③ S2021、④ S3968、⑤ S4106、⑥ S4666、⑦ S7614、⑧ P2308、⑨ P3922、⑩ P3924、⑪ BD2580(歳80、北8665)、⑫ BD3123(騰23、北8664)、⑬ BD3417(露17、北8301)、⑭ BD3421(露21、北8668)、⑮ BD3424(露24、北8669)、⑯ BD3645(爲45、北8666)、⑰ BD3646(爲46、北8667)、⑱ 北大D103、⑲ 津圖67(中散2044)、⑳ 臺灣國立中央圖書館本119丙(中散4119B)、㉑ 書道博物館本90(中村不折氏舊藏本、日散1090)、㉒ 杏雨書屋本285(李氏鑒氏舊藏本447、日散

## (70) 旅順博物館蔵吐魯番漢文文獻から發見された禪籍について (2) (程)

30 號が存していることが、『旅博圖録』によって知られた。筆者の精査によって、さらに下表にある⑩と⑳の 2 號も『法句經』の殘片と特定された。まず、これらの 32 號にも及ぶ『法句經』の殘片を、その寫本番號順に表記しておこう。

	旅博本番號	寸法(縦×横)	推定年代	CBATA(T85)	旅博圖録
①	LM20-1452-05-03	7.8 × 5.8	唐	1435a27~b1	02-033
②	LM20-1452-15-07	12.2 × 4.7	唐	1434b19~21	02-083
③	LM20-1453-35-10	7.8 × 11.7	唐	1435b2~8	02-381
④	LM20-1455-27-05	4.9 × 5.7	唐	1435a20~22	03-337
⑤	LM20-1455-27-14a	3.7 × 2.5	唐	1435a18~19	03-340
⑥	LM20-1455-27-14b	4.6 × 4.1	唐	1435a13~14	03-340
⑦	LM20-1456-17-19	8 × 16.5	唐	1432c24~33a3	04-110
⑧	LM20-1456-27-18	7 × 3.5	唐	1435a2~5	04-177
⑨	LM20-1456-35-08	13.3 × 14.4	唐	1432c25~33a4	04-227
⑩	LM20-1458-02-07	10.3 × 6.2	唐	1435b10~13	05-013
⑪	LM20-1460-04-06	4.6 × 5.6	唐	1435a15~19	06-141
⑫	LM20-1460-10-04	6.6 × 3.7	唐	1435-b7~8	06-182
⑬	LM20-1461-07-13	9.4 × 7.2	唐	1433a2~5	07-043
⑭	LM20-1462-06-02	6.8 × 6.5	唐	1435a28~b3	08-030
⑮	LM20-1462-08-01	45.2 × 7.3	唐	1435b8~c3	08-044
⑯	LM20-1462-10-08	4.4 × 3.9	唐	1435a21	08-057
⑰	LM20-1462-15-04	12.1 × 8.4	唐	1433b12-16	08-080
⑱	LM20-1464-27-13	5.8 × 4.9	西州回鶻	1435b8-11	09-159
⑲	LM20-1465-36-02	5.8 × 5.3	唐	1433c3-5	09-361
⑳	LM20-1466-12-05	6.4 × 6.2	唐	1435a15-19	10-064
㉑	LM20-1466-12-15	4.7 × 4.4	唐	1435b9-11	10-066
㉒	LM20-1468-08-05	7.4 × 8.0	唐	1432c10-18	11-034
㉓	LM20-1469-26-01	17.8 × 11.5	唐	1434b19-23	11-206
㉔	LM20-1489-37-14	13.8 × 12.8	唐	1434b4-11	18-152
㉕	LM20-1500-03-04	9.6 × 9.0	唐	1433b16-21	21-166
㉖	LM20-1500-18-04	3.8 × 5.8	唐	1432c1-6	21-193

285)の 22 種と、吐魯番漢文文書の㉓出口常順氏舊藏吐魯番文書 234 の 1 種、計 23 種を紹介している。但し、㉔の杏雨書屋本 285 は正確に言えば『法句經』そのものの寫本ではなく、いわゆる禪宗系『法句經疏』に当たる寫本であるため、これを『法句經』の寫本一覧より除外すべきである。また、『分類目録』の刊行後、拙稿英藏(2)で S8495、S12213 の 2 種を、拙稿吐魯番(2)で出口氏舊藏の㉔と見事に結合可能なドイツ藏吐魯番漢文文書の Ch1554 の 1 種を、拙稿俄藏(3)-2 で D x3220A、D x4219、D x4653、D x5312 の 4 種を、それぞれ紹介している。

⑲	LM20-1503-C0234	11.6 × 7.8	唐	1432c4-10	22-218
⑳	LM20-1505-C0619c	4.8 × 3.2	唐	1435b6~7 <sup>12</sup>	23-169
㉑	LM20-1506-C0744c	6.6 × 4.4	唐	1435a3-4	24-026
㉒	LM20-1509-C1581d	4.3 × 7.3	唐	1433a3-8	26-092
㉓	LM20-1509-C1623a	5.7 × 5.9	唐	1435a6-10	26-141
㉔	LM20-1511-CB0062	7 × 4.8	唐	1435a8-11	26-219

上記 32 号のうち、筆者が新たに特定した⑲、㉒の 2 号を除き、すべて『旅博圖録』が紹介したものである。筆者がこれらの残片を改めて精査したところ、残片の結合によるテキストの復元の可能性を有するものは少なくとも 3 組もあることが判明したのである。ただ、『法句經』を含む旅博コレクションより出現した禪籍は、すべて残片に過ぎず、それぞれに存する文字などの情報が極めて少ないことから、筆跡による寫本歸屬の同定作業に困難が極まった。慎重を期すため、斷定を避け、可能性のあるものとしていることを、まずお断りしておく。<sup>13</sup>

第 1 組：⑲(下線) + ㉑(波線) + ㉓(二重下線) + ㉒(點線)

\*異なる残片に文字がそれぞれ一部ずつ残存する場合は二重波線を用いる。

(以下同)

\*比較対象となる大正藏本は、復元テキストに存する内容に下線をつけ、それに合わせて適宜に改行した。(以下同)

第 1 組：⑲ + ㉑ + ㉓ + ㉒	大正藏本(T85-1432c24~1433a7)
前缺	前略
1 □ … □ 即為外心處 □ … □ /	色即為外心處
2 □ … □ 隨已來 □ □ □ 三事 □ … □ /	中間是為三處或有衆生從無始已來不知三事
3 □ … □ 到或是 □ □ □ 教如實 □ … □ /	虛之與實妄起種種煩惱到或是以我今教如實
4 □ … □ 不自見 □ □ □ 自名心 □ □ □ 三事 /	觀令斷諸或善男子眼不自見色不自名心無形質三事
5 □ … □ 眼不自見 □ □ 處於內色不自 □ □ /	俱無是故眼不自見常處於內色不自名常
6 □ … □ □ □ 無形相處無所在善男子眼不自 /	處於外心無形相處無所在善男子眼不自
7 □ … □ 緣非見相眼即是空色屬眼時 /	見屬諸因緣緣非見相眼即是空色屬眼時

<sup>12</sup> 筆者による比定。但し、異文がある。

<sup>13</sup> 『法句經』残片の歸屬同定作業に際し、啓發的示唆を數多く賜った上海師範大學副教授の定源(王招國)先生と閩南佛學院の悟法法師に、深謝を申し上げたい。

(72) 旅順博物館藏吐魯番漢文文獻から發見された禪籍について (2) (程)

8 □色為色若眼性空色亦無實□…□/  
 9 眼見體无實故善男子菩□…□/  
 10 空於内无染知色是空於□…□/  
 11 □…□行□鼻舌身意□…□/  
 12 □…□性眼終日□…□/  
 13 □…□終日名□…□/  
 後缺

名色為色若眼性空色亦無實何以故從空  
 眼見體無實故善男子菩薩摩訶薩知眼是  
 空於内無染知色是空於外無著識心是空  
 滅於諸行耳鼻舌身意亦復如是善男子知  
 眼屬緣見無自性眼終日見猶為無見色性  
 屬眼而不自名終日名  
 後略

このように、⑦+⑨+⑬+⑳の順序でテキストを復元した結果、これらの4號の殘片から構成される第1組の内容は、「觀三處空得菩提品第四」の一部(T85-1432c24~1433a7)に相當するものであることが判明した。復元テキストからすれば、多少の字數の不揃いがみられるものの、元來1行凡そ17字前後で書寫された寫本であつたと推定できよう。



第1組復元圖 (⑦+⑨+⑬+⑳)

第2組：②（下線）＋⑳（波線）

第2組：②＋⑳	大正藏本(T85-1434b20～b23)
前缺	前略
1 □ … □不能善解□ /	不能善解決
2 定大乘深妙之義及善知識所有恩德如佛 /	定大乘深妙之義及善知識不有恩德如佛
3 前說恩重難議唯願世尊為□ … □ /	前說恩重難議唯願世尊為諸大衆說於親
4 近善知識法 /	近善知識法
5 佛言善哉善哉善男子□ … □ /	佛言善哉善哉善男子乃能為諸衆生問如
6 斯法諦聽諦聽善思念□ … □ /	斯法諦聽諦聽善思念
後缺	後略

このように、②＋⑳という順序でテキストを復元した結果、これらの2號の殘片から構成される第2組の内容は、「普光莊嚴菩薩等證信品第八」の尾部(T85-1432c24～1433a7)に相當するものであることが判明した。また復元テキストからすれば、元來1行凡そ17字前後で書寫された寫本であつたと考えられる。



第2組復元圖 (②＋⑳)



第3-1組復元圖 (⑤＋⑩＋⑪)

(74) 旅順博物館藏吐魯番漢文文獻から發見された禪籍について (2) (程)

旅博本『法句經』殘片においては、第3組の状況が最も複雑といえよう。おそらく元來同一寫本に屬するものであらうとみられる殘片の数がなんと13號にも上っている。そして、これらのうち、綴合による復元可能な部分は、大きく2組に分けられるが、そのほか、そのままでは綴合不能な殘片も複数含まれている。ここでは、綴合可能と推定される2組の寫本復元を試みよう。

第3-1組：⑤(下線)+⑳(波線)+㉑(二重下線)・・・④

筆者が精査したところ、まず⑤、⑳、㉑の殘片3種が結合可能であることが判明した。そして、④も恐らく同一寫本に屬する殘片と推定されるものの、上記3種との間に僅かではあるが、缺損した文字があり、このままでは結合復元ができない。そのため、2表にわけて、これらの殘片内容を復元することとしよう。

第3-1組：⑤+⑳+㉑	大正藏本(T85-1435a15～19)
前缺	前略
1 <u>□・・・□中三事空</u> <u>究□不可□・・・□/</u>	於中三事空究竟不可得施福如野馬若說諸持戒
2 <u>□・・・□威儀</u> <u>戒性如虚空</u> <u>持者□・・・□/</u>	無善無威儀戒性如虚空持者為迷到若見瞋恚者
3 <u>□・・・□以忍為鞮鞢</u> <u>知瞋等陽炎□・・・□/</u>	以忍為鞮鞢知瞋等陽炎忍亦無所忍說諸精進業
4 <u>□・・・□上慢說</u> <u>无增□・・・□/</u>	為增上慢說無增上慢者
後缺	後略
第3-1組：④	大正藏本(T851435a20～22)
前缺	前略
1 □・・・□精進 若□・・・□/	無善無精進若起精進心是妄非精進若能心不妄
2 □・・・□禪 心隨境□・・・□/	精進無有虛若學諸三昧是動非坐禪心隨境界流
3 □・・・□為業 從業□・・・□/	云何名為定參羅及萬像一法之所印
後缺	後略

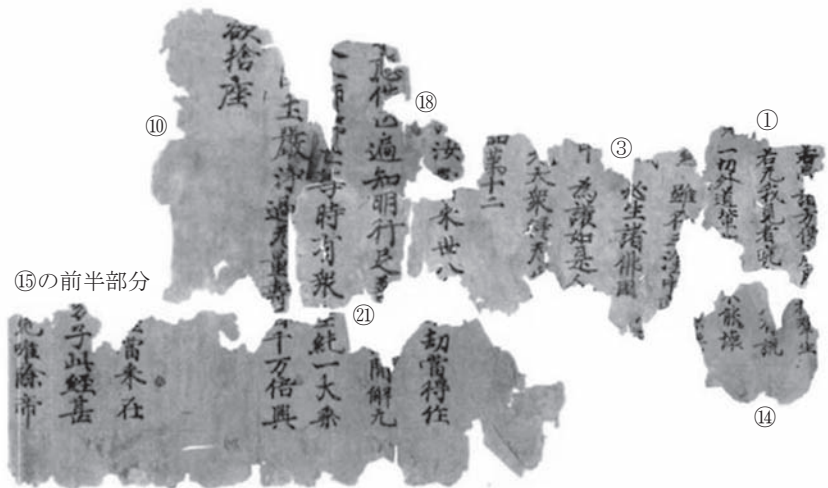
このように、⑤+⑳+㉑・・・④順序でテキスト復元を行った結果、これらの4號の殘片から構成される第3組の内容は、「普光問如來慈偈答品第十一」の一部(T85-1435a15～a22)に相當するものであることが判明した。興味深いことに、④にある「為業從業」が現行の大正藏本から見出されず、これは『法句經』の異本の存在を示唆しているかもしれない。

第 3-2 組 : ①(太字、下線) + ⑭(太字、波線) + ③(太字、點線) + ⑱(波線) + ⑳(二重下線) + ⑩(點線) + ⑮(下線)

第 3-2 組 : ①+⑭+③+⑱+⑳+⑩+⑮	大正藏本 (T85-1435a27~c3)
前缺	前略
1 <u>□…□善學諸方便度脱於群生</u> /	善學諸方便度脱於群生
2 <u>□…□若无我見者究□□<u>看說</u></u> /	我今說此法為攝有衆生若无我見者究竟無所說
3 <u>□…□見 一切外道輩盡□<u>不能壞</u></u> /	此是金剛句決了諸邪見一切外道輩盡力無能壞
4 <u>□…□經雖在三塗中□□□<u>涼樂</u></u> /	若有諸衆生得聞如是經雖在三塗中究竟清凉樂
5 <u>□…□必生諸佛國□…□</u> /	若聞此經名及解一句義必生諸佛國何況讀誦者
6 <u>□…□<u>因</u> 為護如是人□…□</u> /	若有此經處我恒在其中為護如是人令得無上道
7 <u>□…□<u>死</u>大衆得无生□…□</u> /	爾時世尊說此偈已普光大衆得無生法忍
8 <u>□…□<u>品第十二</u> /</u>	即為寶明授記品第十二
9 <u>□…□記汝當來世八□□劫當得作</u> /	寶明菩薩尋得授記汝當來世過八十萬劫當得作
10 <u>□…□<u>應供正遍知</u>明行足善逝世間解无</u> /	佛號寶明如來應供正遍知明行足善逝世間解無
11 <u>□…□天人師佛世尊時有衆生純一大乘</u> /	上士調御丈夫天人師佛世尊時有衆生純一大乘
12 <u>□…□<u>國土嚴淨</u>過无量壽百千万倍與</u> /	更無聲聞辟支佛名國土嚴淨過無量壽百千萬倍與
13 <u>□…□<u>欲捨</u>座 /</u>	諸菩薩授記已訖便欲捨坐
14 <u>□…□ /</u>	傳持品第十三
15 <u>□…□當來在</u> /	爾時文殊師利菩薩前白佛言世尊此等當來在
16 <u>□…□<u>男子</u>此經甚</u> /	何等人手以何恩緣得聞此經佛言善男子此經甚
17 <u>□…□<u>見</u>唯除帝</u> /	深難可得聞譬如金剛一切凡夫不能親見唯除帝
18 <u>□…□<u>菩薩</u>譬如</u> /	釋此經亦爾聲聞緣覺所不能見唯除菩薩譬如
19 <u>□…□經亦尔聲</u> /	師子一切禽獸無敢向者唯除龍王此經亦爾聲
20 <u>□…□<u>以真金</u>滿</u> /	聞緣覺斷絕希望唯除菩薩假使有人純以真金滿
21 <u>□…□萬倍假使有人</u> /	四天下以用布施不如聞此經名得福萬倍假使有人
22 <u>□…□生滿閻浮提</u> /	純以七寶作床褥榻以頗梨衣供養衆生滿閻浮提
23 <u>□…□<u>子</u>善女人得</u> /	界於一劫不如聞此經名得福萬倍若有善男子善女人得
24 <u>□…□<u>得本</u>乃能</u> /	聞此經者當知是人親侍無數諸佛殖衆德本乃能
25 <u>□…□<u>手</u></u> /	得聞善男子此經當來至於八地菩薩之手
26 <u>□…□ /</u>	護經如眼寧喪身命不急品第十四
27 <u>□…□<u>眼目</u>寧喪</u> /	佛告諸大衆及寶明菩薩汝護是經如護眼目寧喪
28 <u>□…□此經中信心</u> /	身命莫於此經中如生懈怠若有衆生於此經中信心

29  
後缺

□…□尊說此語 / 者當知是人眞佛弟子無有疑也爾時世尊說此經  
已一切大衆天龍八部皆各歡喜如法奉行



第 3-2 組復元圖 (①+⑭+③+⑰+⑲+⑩+⑮の前半部分)

このように、①+⑭+③+⑩+⑰+⑲+⑮の順序でテキストを復元した結果、これらの 7 號の殘片から構成される第 3-2 組の内容は、「普光問如來慈偈答品第十一」の途中から經文の最終品に當たる「護經如眼寧喪身命不急品第十四」のほぼ末尾まで(T85-1432c24~1433a7)に相當するものであることが判明した。復元テキストからすれば、オリジナル寫本は元來 1 行凡そ 17~21 字前後で書寫されたものであったと推定できよう。

上記の復元作業により、第 3-1 組の⑤+⑳+㉑の 3 號、そして第 3-2 組の①+⑭+③+⑩+⑰+⑲+⑮の 7 號は、まずそれぞれほぼ結合可能な殘片であることが判明した。そして、これらの 10 號のほか、④、⑧、⑪の 3 號も恐らく同一寫本に屬する殘片であると考えられるが、このままでは他の殘片との結合ができない。こうしてみれば、既知の旅博本『法句經』殘片 32 號のうち、少なくとも 13 號が元來同一寫本に歸屬するものといえよう。

また、筆跡を考慮すれば、⑳と㉑の 2 號が、㉒と㉓の 2 號が、それぞれ同一



寫本に屬するものである可能性がかなり高いものの、兩者の間になお缺損した内容があるため、このままでの結合はできない。特に筆者の注意を引きつけたのは、㉔㉕の2號が出口常順氏舊藏本 234 + ドイツ藏 Ch1554 の2號と筆跡にかなりの類似性がみられることである。もし筆者のこの見立てが大過なきものであれば、㉔㉕も出口氏舊藏本と同様に高昌故城の出土ということになるし、ひいてはドイツ藏吐魯番漢語文書と旅博コレクションとの関連性を示す貴重なサンプルともなり得よう。

### 13、『金剛三昧經』<sup>14</sup>(2號)

旅博コレクションに存する『金剛三昧經』の殘片については、『旅博圖録』が LM20-1451-33-05、① LM20-1465-38-19a、② LM20-1517-0116R、V の3號4種があるとしている。いずれも「唐時期」の寫本という。但し、LM20-1451-33-05 については、筆者が「解題」の示した出典を確認したところ、極小の殘片で、判讀できる文字が限られているなどの不利な条件も重なったことから、これを『金剛三昧經』の殘片とするには若干無理があるように思う。慎重を期すため、今回はこれを『金剛三昧經』のテキストとしない。また、LM20-1517-0116V についても、「解題」ではその内容を、T9-368a19-21 とする一方、臺帳から剥がせないため、裏面の寫眞撮影は不能としていた。筆者が寫眞による殘片の確認ができなかったことから、今回は対象から除外した。その結果、小論では① LM20-1465-38-19a、② LM20-1517-0116R の2號のみを取り上げることにする。

① LM20-1465-38-19a	大正藏本(T9-368b19-20)
前缺	前略
1□…□一切境本□…□/	一切境本空一切識本空空無緣性如何緣
2□…□起無住菩□…□/	起無住菩薩
後缺	後略

<sup>14</sup>『分類目録』では、『金剛三昧經』の敦煌漢文寫本テキストとして① S2368V、② S2445、③ S2610、④ S2794、⑤ S3615、⑥ S8246、⑦ BD593(荒 93、北 6282)、⑧ BD4281(玉 81、北 6283)、⑨ 杏雨書屋本 147(李氏鑿氏舊藏本 315、日散 147)、計9種を紹介している。その後、拙稿俄藏(3)-2 でД x14519、Д x16681 の2種を加えた。

(78) 旅順博物館蔵吐魯番漢文文獻から發見された禪籍について (2) (程)

② LM20-1517-0116R	大正藏本(T9-368a17-19)
前缺	前略
1□…□動 /	動
2□…□ <u>波羅蜜心王</u> /	以是智故得無生般若波羅蜜心王
3□…□ <u>若於一切處無</u> □ /	菩薩言尊者無生般若於一切處無
後缺	後略

14、『法句經疏』(LM20-1455-02-08 の1號)

『旅博圖録』卷3によつて、旅博コレクションに「《法句經》注疏」と擬題されている① LM20-1455-02-08(唐時期)1種の存在が公にされている。敦煌本『法句經疏』には、禪宗系<sup>15</sup>と攝論系の2系統が知られている中で、筆者が確認したところ、①は紛れもなく禪宗系のものなのだ。

その寫眞を見る限り、①はかろうじて地脚を確認できる罫入りの紙片に4行ほどの内容を有する殘片である。1~2行目はポイントを落とした經文の注釋が單行で書寫され、3行目と、4行目の2文字目以降の内容は、すべて『法句經』經文に當たる。それを大正藏本で説明すれば、「二十一種譬喻善知識品第六」にある「善知識者是汝梯橙、扶侍汝等至彼岸故。善知識者是汝飲食、能使汝等增長法身故。善知識…」(T85-1433c14~17)の一文に對する注釋である。

① LM20-1455-02-08	三谷眞澄校訂本 <sup>16</sup>
前缺	前略
1□…□ <u>梯橙</u> □…□ /	登高迺望者非梯橙之扶遊涅槃十地者非善知識不進使人升高去下超
2□…□ <u>預涅槃</u> 故言至 /	預涅槃故言至彼岸也 <b>善知識者是汝飲食能使汝</b>
3□…□ <b>等增長法身</b> /	<b>等增長法身故</b>
4□…□矣 <b>善知識</b> /	食涅槃之香飯飲解脫之禪漿塵無依鏡法身清淨矣 <b>善知識</b>
後缺	後略

<sup>15</sup> 『分類目錄』では、禪宗系『法句經疏』のテキストとして① P2192、②杏雨書屋本 285、③杏雨書屋本 736、計3種を紹介している。その詳細については、『分類目錄』の該當項目を参照されたい。

<sup>16</sup> 三谷眞澄、白田淳三、古泉圓順『敦煌秘笈』羽二八五『法句經并法句經疏』解説と釋文(『龍谷大學世界佛教文化研究論叢』59、2021、50-51頁)。

### 三、結び

小論では、多くの先行研究に導かれつつ、『旅博圖録』に基づいて旅博コレクションより出現した禪籍を概観してきた。筆者は、これらの禪籍には旅博コレクションならではの特徴がみられたと考えている。まず、旅博コレクションに含まれる禪籍は、すべて残片であり、しかもそのほとんどが極小の碎片である。それが故に、それぞれの禪籍の内容特定に不確定要素も常に伴うことを認識しなければならない。次に、これらの禪籍のうち、元來同一寫本に屬するものも予想以上にあつて、しかもその一部が結合などによって寫本復元も可能である。そして、同一寫本に屬する残片は、旅博コレクションにのみ止まらず、龍大藏大谷文書やドイツ藏吐魯番漢文文書などにも存する可能性があるため、今後各コレクションの垣根を越えて横斷的な検出作業が必要不可欠となるであろう。さらに、敦煌遺書は、一般的に藏經洞の封印された11世紀を書寫年代の最下限とみられ、その傳播地域もほぼ敦煌周邊に限定せざるを得ないのに対して、旅博コレクションを含む吐魯番出土文獻は、空間的に敦煌よりも西に廣がり、時間的にも西州回鶻時代(866~1275)、すなわち13世紀末頃まで廣がったということになった。換言すれば、吐魯番出土文獻は、敦煌遺書に比して、その傳播地域も流布時期もより廣汎にわたっており、西域における禪籍の流布、ひいては禪宗の傳播と影響を考察する場合、缺かすことのできない貴重な資料となりえよう。

小論では、燈史類の2種、4號を、語録類の5種、36號を、注抄・偽經論類の7種、91號を取り舉げた。このうち、龍大藏大谷文書19號も含まれている。その一覧は下記の通りである。

#### (一)燈史類

- 1、『菩提達摩南宗定是非論』(LM20-1523-19-178の1號)
- 2、『楞伽師資記』(LM20-1454-05-18、LM20-1522-17-16、LM20-1503-C0190の3號)

#### (二)語録類

- 3、『觀心論』(LM20-1490-15-14の1號)
- 4、『大乘起世論』(LM20-1471-28-03の1號)
- 5、『二入四行論』(LM20-1521-23-07の1號)
- 6、『大乘五方便北宗』(LM20-1520-20-05Vの1號、Ot.5449の1號)

(80) 旅順博物館蔵吐魯番漢文文獻から發見された禪籍について (2) (程)

7、『南陽和尚問答雜徵義』(旅博コレクション 14 號+龍大藏大谷文書 17 號 = 31 號)

(三)注抄・偽經論類

8、『觀世音經讚』(旅博本 39 號+龍大藏大谷文書 1 號 = 40 號)

9、『佛爲心王菩薩說頭陀經』(4 號)

10、『佛說法王經』(11 號)

11、『禪門經』(LM20-1450-09-06 の 1 號)

12、『佛說法句經』(32 號)

13、『金剛三昧經』(2 號)

14、『法句經疏』(LM20-1455-02-08 の 1 號)

それでは、すでにそれぞれの該當項目において表記した『雜徵義』、『經讚』、『法句經』、『法王經』の 4 種を除いた各種、各號の基本情報を表記し、小論の締め括りとしてしよう。

禪籍名	旅博本番號	寸法(縦×横)	推定年代	CBATA	旅博圖録
定是非論	① LM20-1523-19-178	5.3 × 4.6	唐	B25-57a7~10	31-174
楞伽師資記	① LM20-1454-05-18	3.5 × 4.9	唐	T85-1283b15~18	03-031
	② LM20-1522-17-16	4.4 × 3.7	唐	T85-1286a18~20	31-086
	③ LM20-1503-C0190	11.8 × 16.6	唐	T85-1283a16~20	22-188
觀心論	① LM20-1490-15-14	5.4 × 12.9	唐	X63-10a10~22	18-223
大乘起世論	① LM20-1471-28-03	9 × 8.4	西州回鶻	ZW3-68a19~69a2	12-043
二入四行論	① LM20-1521-23-07	5 × 2.4	西州回鶻	/	30-256
大乘五方便 <sup>北宗</sup>	① LM20-1520-20-05V	6.4 × 4.4	西州回鶻	T85-1275a19~23	30-071
	① Ol.5449	9.5 × 7.5	西州回鶻	T85-1275a17~24	/
心王經	① LM20-1454-07-06	11.2 × 10.2	唐	ZW1-282a1~8	03-042
	② LM20-1457-25-08	6.8 × 17	唐	ZW1-284a6~285a9	04-390
	③ LM20-1521-18-04	4 × 2.7	唐	ZW1-282a8~9	30-232
	④ LM20-1522-03-05	2 × 3.9	唐	ZW1-296a4~11	31-015
禪門經	① LM20-1450-09-06	13.1 × 25.1	西州回鶻	/	01-041
金剛三昧經	① LM20-1465-38-19a	7 × 4.6	唐	T9-368b19~20	09-374
	② LM20-1517-0116R	4.9 × 4.9	唐	T9-368a17~19	28-126
法句經疏	① LM20-1455-02-08	7.5 × 6.8	唐	/	03-203

## 補遺

今回の旅博コレクションより禪籍の検出作業において、上記の禪籍以外にも、筆者にとっては、思わぬ収穫があった。すなわち、筆者の精査によって、① LM20-1461-23-12 の 1 號が、佚名の『心經注』の序文に当たる殘片と判明したことだ。この佚名の『心經注』については、筆者がかつて「佚名の敦煌本『般若波羅蜜多心經』の本文校訂」(『宗教學論集』23, 2004)と題する拙稿において、天理圖書館本<sup>17</sup>を底本に、北京本 BD3610(爲 10、北 8561)、P3904 を校本に用いてテキスト校訂を行った。佚名の『心經注』は禪籍であるか否かは必ずしも明らかでないため、ここでは深入りをせず、詳細は前述の拙稿に譲る。その後、津藝 256、津藝 275 の 2 號も佚名『心經注』の寫本であることが判明された<sup>18</sup>。

① LM20-1461-23-12	程本
前缺	前略
1□…□緣都寮□…□/	十二因緣都寮
2□…□志樂三□…□/	都督丹川公情希十善志樂三
3□…□然而真□…□/	空爰命小僧注述斯典然而真
4□…□圖理有圖□…□/	相幽隱空智難明唯恐旨理有乖
5□…□序引用□…□/	實深漸於瀚墨敢題序引用
6□…□圖心經圖□…□/	暢玄猷冀有識而會真悟心經而返照
後缺	後略

『旅博圖録』巻 7 に掲載された寫眞(148 頁)に基づいて紹介すれば、①は縦 5.1cm×横 14cm 紙片に 1 行 3 字前後、合わせて 6 行の内容を有する殘片で、その内容は佚名の「心經注序」の末尾に当たる。この殘片には朱書きの句讀點もみられる。さらに上表の内容對照によって、元來 1 行凡そ 12 字前後に書寫されていることも判明できた。

<sup>17</sup> 天理圖書館の所蔵となる佚名の敦煌本『注般若波羅蜜多心經』(以下、天理圖書館本)については、神田喜一郎「新たに発見せられた般若心經の注本」(『ビブリア』天理圖書館報 5、1955。後に『神田喜一郎全集』第三卷、同朋舎、1984 に再録された)、王三慶「《般若波羅蜜多心經》註本價值試論」(『敦煌學』19、1992)をそれぞれ参照されたい。

<sup>18</sup> 王三慶「敦煌文獻《般若波羅蜜多心經》唐・佚名注本再探—以天理大學圖書館イ 183—293 爲中心」(同氏『敦煌吐魯番文獻與日本典藏』〈典範集成・文學〉8、新文豐出版、2014)。その文末に附された「《般若波羅蜜多心經》注本整理」と題する附録では、王氏が天理圖書館本を底本に、津藝 256、津藝 275、BD3610、P3904 の 4 種を校本にテキストを校訂されている。これが佚名『心經注』に關する目下最善の校訂本である。

(82) 旅順博物館藏吐魯番漢文文獻から發見された禪籍について (2) (程)

附記：

本稿は、「旅順博物館藏吐魯番漢文文獻における禪籍の檢出と整理について」  
(令和3年度駒澤大學特別研究助成〈申請者：程正〉)の研究成果の一部である。

〈キーワード〉 旅順博物館、吐魯番(トルファン)漢文文獻、禪籍